

## NPO法人古賀志山を守ろう会活動記録

活動日	令和5年9月26日（木）臨時		活動場所	古賀志町入唐沢	
活動内容	枯死木伐採（赤松）				
参加者	大出 忠	平野 昭夫	三輪 健治	村田 鉄三	藤沼 力
	原田 昌廣	池田 正夫			

今回の枯死木（赤松）の伐採は貴重な石碑を守るための臨時作業であった。

この石碑は江戸期寛延元年（1751）、瀧大権現（現瀧神社）への参道整備事業を記念して建立された。この先には享保十一年（1726）建立の瀧大権現石鳥居がある。この旧道は通称

たきばんぼどおり  
「瀧馬場通り」と呼んでいる。



赤松の枯死木が風害によって倒れ辛うじて檜の木に凭れ掛った状況下にあった。（左写真）

このまま放置すれば石碑の直撃は免れない。難題はチェーンソーの切り込む角度であった。ロープを縛り手前に引っ張る態勢を整え慎重に伐採作業に取り掛かった。祈る気持ちでロープを支えた。

伐採は神業に近く見事に的中。この石碑を直撃することなく石碑の約1m左側に落下した。直撃を免れたことは何よりの喜びであった。

往古、古賀志村村民の山岳信仰を示す貴重な財産を守れたことに全員安堵。

参道を塞ぐ形で切り倒されたので切断し参道脇に片づけた。

